

## 【今年度の結果と取組みについて】

### ○●国語●○

#### (領域ごと)

- ①言葉の特徴や使い方に関する事項 概ね良好な結果であった
- ②A話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった
- ③B書くこと やや課題が残る結果であった
- ④C読むこと 概ね良好な結果であった

#### (問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 概ね良好な結果であった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

#### (無解答率)

やや課題が残る結果であった

#### (その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問は、2二
- ・もっとも正答率の低かった設問は、2四（記述の設問）
- ・もっとも無解答率の高かった設問は、3三（1）ウ
- ・もっとも無解答率の低かった設問は、2一、2二

#### 分析

- ・「話すこと」「聞くこと」が全国平均を上回っている。
- ・「何について書かれていますか」というような問いはよく解けているが、問題形式が選択式⇒短答式⇒記述式のように、書く量が増えるほど全国平均との差が大きくなっている。
- ・3三（1）ア・ウ・エ、「漢字」3三（2）イ・オ「読解」の無回答率が高い。  
漢字の学習は繰り返し行っているが、練習している漢字はできていても文章の中で活用することに課題が見られる。

## ○●算数●○

### (領域ごと)

- |          |               |
|----------|---------------|
| ①A数と計算   | やや課題が残る結果であった |
| ②B図形     | やや課題が残る結果であった |
| ③C測定     | 概ね良好な結果であった   |
| ④C変化と関係  | 概ね良好な結果であった   |
| ⑤Dデータの活用 | 概ね良好な結果であった   |

### (問題形式)

- |      |               |
|------|---------------|
| ①選択式 | 概ね良好な結果であった   |
| ②短答式 | 概ね良好な結果であった   |
| ③記述式 | やや課題が残る結果であった |

### (無解答率)

概ね良好な結果であった

### (その他)

- ・もっとも正答率の高かった設問 3 (1) (2)
- ・もっとも正答率の低かった設問 2 (1)、3 (4)
- ・もっとも無解答率の高かった設問 3 (4)
- ・もっとも無解答率の低かった設問など 1 (4)

### 分析

- ・選択肢がある問題はよく解けている。
- ・棒グラフの読み取りがよくできている。
- ・三角形の公式は理解できているが、三角形の向きが変わるとことより正答率が減少する傾向にある。
- ・算数「図形」「数と計算」の概念が弱く、記述問題になると弱く正答率も低い。
- ・問題文の文章量が増えると、解答率が下がっている。

## ○●経年比較●○

### 全体的な傾向についての分析

- ・国語・算数ともに記述式の問題で正答率が減少傾向。
- ・国語の方が算数に比べ無回答が多い。
- ・国語「書くこと」の領域で正答率が低く、課題があった。

### 学力高位層(80~100%)と学力低位層(40~80%)、エンパワー層(0~40%)についての分析

- ・学力低位層は国語、算数ともに全国平均と比べ平均的である。また、算数は、正答率が昨年より高くなった。
- ・学力高位層は、国語は昨年より正答率は高くなり、算数は昨年より正答率が低くなった。

## ○●取組み●○

### 学力向上に関する取組み

- ・全学年、算数の始まりに『算数あたま』という簡単な計算問題や単元に合った計算問題、「ビジョントレーニング」に取り組んでいる。算数の授業に切り替えやすくなったり、集中力が高まってきている。
- ・学力低位層には、個別に声かけや休み時間になどに一緒に学習することで補っている。時には、別に課題を渡すことで、さまざまな問題に触れさせるようにしている。
- ・今年度、算数では、3年生5年生で分割授業・習熟度授業を行い、一人ひとりのがんばりや成長、つまづきを見つけやすくしている。
- ・6年生は、タブレットをすべての授業の中で活用している。コロナ禍でグループワークができない時にムーブノートで意見交流をおこなってきた。また、単元を終えての感想などをタブレットで行ったり、音楽・図工などでは、動画や写真を使って、テストや鑑賞を行っている。宿題などでもドリルパークを活用している。

### 学力テスト生活面アンケートの分析

- ・「学校に行くのが楽しい」と肯定的に思っている児童が多く、「当てはまらない」と答えた児童はいなかった。
- ・「友だちと話し合うとき、友だちの意見を最後まで聞く」ことができている児童が多く、「できていない」と答えた児童がいなかったため、聞くことの大切さを引き続き伝えていきたい。
- ・「人が困っているときは進んで助けている」「人の役に立ちたいと思っている」「友だちと協力するのが楽しい」と思っている児童が多い。また、人間関係は良好と答えた児童も多い。
- ・ICTは進んでいる。意見交流や調べ学習に活用している取り組みの成果である。
- ・指示があれば、一生懸命に取り組むもうとする児童が多いように感じるが、主体的に学ぶ力が弱い。
- ・「朝食を毎日食べている」に肯定的に答えた児童、「毎日同じくらいの時刻に起きている」に肯定的に答えた児童は多い。
- ・「毎日同じくらいの時刻に寝る」児童が全国や大阪府と比べ低く、この傾向は生活チェック表でも表れていた。
- ・携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について約束がない児童がいた。持たせる場合は、家庭で使い方や約束を児童と共有したり、守れているかなど定期的に確認したりしてもらうことを啓発していく。
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」当てはまらないと答えた児童がいないことはよかったが、どちらかといえば当てはまらないと答えた児童がいた。当てはまるが100%になるよう、学校と家庭とともに「いじめはどんな理由があってもしてはいけないことだ」ということを啓発していく。
- ・「自分と違う意見について考えるのが楽しい」と思っている児童が少ない。また、失敗を恐れず挑戦できている児童が少ない。このことから自己肯定感が低く、自分に自信が持てない様子がみられる。将来の夢や目標にも繋がるキャリア教育の充実や「茨木っ子力」の中の「ゆめ力」を育む取り組みを引き続き行っていきたい。また、より一人一人の自己肯定感を高めるような言葉かけも引き続き意識して行っていきたい。